

第70回都市計画全国大会 (宮崎県)

▶ 昭神通線 (小戸之橋架替え事業) (宮崎市)

本路線は、宮崎市内中心部を流れる大淀川を渡河し、市の南北方向を結ぶ幹線道路となります。このうち、小戸之橋は、昭和38年の建設（橋長503m、片側一車線）後、約50年が経過し、老朽化が著しく、1日約3万台の交通量に伴う渋滞の慢性化が課題となっていました。

そこで、平成20年度から架替え新橋構想に着手し、同25年度から旧橋の撤去、平成27年度から総延長1,048m（うち橋梁506m）の新橋及び付道路の整備を順次進めているところです。

新たな小戸之橋については、景観に配慮するとともに、最新の基準に基づいた耐震性能と歩行者の安全を確保し、同32年度末の開通を目指しています。



▶ 島山地区複合型津波避難施設 (宮崎市津波避難困難地区対策事業) (宮崎市)

本地区は、南海トラフ巨大地震で甚大な被害が予想され、津波発生時の特定避難困難地域となりました。

防災研修フロア（集会室、会議室、厨房）や災害全般を想定した備蓄品、資機材等を保管する倉庫を兼ねた複合型避難施設は宮崎県内自治体初であり、施設完成により、同地区の特定避難困難地域は全て解消されました。



▶ 宮崎市生目の杜運動公園 (宮崎市)

市制70周年記念事業として平成11年から平成19年まで約10年かけて、市民が生涯を通じてスポーツに親しむことのできるための総合スポーツ公園として整備されました。

今では、春と秋に福岡ソフトバンクホークスのキャンプ地として賑わいをみせており、また、1年を通して世界並びに全国規模の各種スポーツ大会も数多く開催され、「スポーツランドみやざき」を推進するうえで重要なスポーツ施設の一つを担っています。



▶宮交ボタニックガーデン青島の再整備 (宮崎市)

当園は、昭和40年、宮崎市の観光名所である青島に群生する、特別天然記念物ビロウなど、亜熱帯植物の学術研究や植物の教育の場として整備されました。

開園以来50年以上が経過し、施設の老朽化が課題となっていたことから、平成26年度から施設の再整備に着手し、平成28年3月にリニューアルオープンしています。

再整備では、旧大温室を建て替え、室内には姉妹植物園であるシンガポール植物園とゆかりのある花々やマーライオン像を整備するなど、植物園の更なる魅力向上に繋げています。

リニューアル後は、来園者が大幅に増えただけではなく、周辺の民間施設の開発が次々と動き出すなど、青島地域の活性化の起爆剤となっています。



▶飢肥地区伝統的建造物群保存地区 (日南市)

本地区は、近世から近代にかけて日南地域の中心地として発展し、時代ごとに形成された建造物や工作物、人々の信仰や伝統産業などに係る文化遺産から、九州初の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、多くの観光客で賑わう地区です。

しかし、近年では、急速に進む高齢化などにより歴史的風致のある家屋においても空き家が散見されはじめ、景観維持が困難になるなど、観光への影響が懸念されています。

このようなことから、公募により民間から登用した「まちなみ再生コーディネーター」を中心に、空き家等の宿泊施設や企業オフィスへのリノベーションをはじめ、観光客の新規獲得と交流人口の増加を目指した官民一体となったまちづくりを展開しています。



▶油津地区都市再生整備計画事業 (日南市)

本地区は、多様な都市機能や商業施設等が集積するとともに、歴史的建造物の油津赤レンガ館や堀川運河などの観光資源を有する中心市街地であるが、小売店舗数や歩行者通行量などが減少しており、賑わいの再興と活気のある魅力拠点の形成が求められています。

このことから、歴史的資産を活用して交流人口の増加を図るとともに、社会基盤や都市機能等の既存ストックを活用して利便性や魅力度の高いコンパクトシティを形成することにより、快適な市街地環境の実現と魅力的なまちとして再興し、賑わいのある中心市街地を再生することとしています。



▶都城市中央地区都市再生整備計画事業（都城市）

本地区は、商業、公共、医療、金融施設等が集積する当市の中心市街地で、これまでも様々な形で都市再生整備計画等に基づいて、様々な事業を進めてきた区域ですが、近年、2つの大型商業施設が閉店したことで、まちなかの活力低下が進んだことから、賑わいと活力のある中心市街地の再生が求められていました。

そこで、官と民の協働により、図書館、子育て世代活動支援センター、地域交流センター、多目的広場などの公共施設と商業施設の整備を、一体的に進めることで、多様な都市機能を集約したコンパクトシティ形成を図りながら、中心市街地の賑わい再生に向けた取組を進めています。



▶都城市早水公園整備事業（都城市）

早水公園は体育文化センターを中心に湧水を利用した修景池や万葉植物園、あやめ園、弓道場等を有し、市民の健康増進やスポーツ、レクリエーション等の憩いの場として幅広い年代に活用されている公園です。

本公園では、平成24年度から同31年度にかけて、近的遠的弓道場やサブアリーナ武道場等の体育施設整備を含む、一体的な公園整備事業を行っています。

本事業により、市民利用のほか、九州縦貫自動車道へのアクセス性、近隣のスポーツ施設との連携が可能なることから、全国的な大会の開催やキャンプ等の施設としても期待されています。また、災害発生時に拠点となる防災公園としての機能拡充を図り、市民が安全・安心に利用できる公園づくりに取り組んでいます。



▶延岡駅周辺地区都市再生整備計画事業（延岡市）

延岡駅は、延岡市の玄関口として、都市機能及び商業の拠点となる地域ですが、人口減少や郊外型店舗の進出、商店の後継者不足による空店舗の増加など、商業地としての魅力が減少してきており、延岡市の玄関口にふさわしい賑わいの拠点づくりが求められていました。

このことから、交通結節点である延岡駅周辺に賑わいの交流拠点となる観光交流センター、地域交流センター、延岡駅総合待合施設、市民交流広場及び延岡駅前駐車場等の整備により、駅周辺施設利用者の回遊性と利便性を向上することで、中心市街地の活性化を図ることとしています。



▶ 日向市駅周辺土地区画整理事業（日向市）

本地区は、JR 日向市駅を核とする市の中心市街地であり、宮崎県北地方拠点都市地域の「日向市生活・文化交流拠点地区」に位置づけられ、まちのにぎわいの復活の拠点、市街地の中核拠点、周辺地域との連携の拠点としての街なかの再生が望まれています。

このため、土地区画整理事業をはじめ、鉄道の高架化、商業の活性化、公共公益施設の誘導と併せ、駅を中心とした街なか空間の整備を行うとともに、天領時代の富高陣屋や歴史のある十五夜まつりなどの資源を活かしながら、日向広域圏における「山」と「海」の文化が会う「地域の顔づくり」を進めています。



▶ 特別史跡公園西都原古墳群（西都市）

当公園は、恵まれた自然と 300 余基の古墳を有し、国の特別史跡指定を受け、「風土紀の丘」第 1 号として整備された都市公園です。

古墳の作られた時期は、4 世紀から 7 世紀前半と推定され、御陵墓参考地である男狭穂塚、女狭穂塚をはじめ、前方後円墳、円墳、地下式横穴墓など多種多様な古墳を見ることができる全国有数の巨大古墳群として知られ、今年 5 月には文化庁より日本遺産に認定されました。

また、園内は年間を通して四季折々の草花、緑陰があり、春になると菜の花 30 万本と桜 2,000 本、夏にはひまわり 100 万本、秋にはコスモス 300 万本が咲くなど、県民の憩いとレクリエーションの場として親しまれています。



▶ 妻北地区都市再生整備計画事業（西都市）

西都市は、伝承地や遺跡等が多数存在しており、隣接する特別史跡公園西都原古墳群には多数の観光客が訪れています。

しかしながら、それら文化遺産を有機的に結びつけるネットワークが未整備であり、また衰退傾向にある市街地にそれら観光客を誘導する施策が求められています。

このことから、西都原古墳群や点在する文化遺産、中心市街地を結ぶネットワークを整備することにより観光客の導線確立し、中心市街地の賑わいによる地域再生を図ることとしています。

